

(Ⅲ) 研修会の概要

◆三事業合同研修会

- 1 目的 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」に基づき、県内で実施される「学校支援地域本部」「放課後子どもプラン」「家庭教育支援活動」(以下「教育支援活動」)に関わるコーディネーターや安全管理員等の事業関係者が一堂に集まり、資質向上や情報交換等を図るための研修等を行い、県内における「教育支援活動」の総合的な推進を図ることを目的に実施する。
- 2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 各市町担当職員・学校支援地域本部関係者・放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者
- 4 日時 平成24年7月11日(水) 9:30~12:00
- 5 日程

9:15~ 9:30 受付

9:30~ 9:45 開会行事・三事業の事業説明

9:45~11:00 講演 講師:高木 和久 氏(前湖南市教育研究所所長)

11:15~11:55 情報交換会

12:00 閉会

6 場所 県庁東館7階大会議室

7 参加者数 44名

8 概要

(1) 演題 「学校・家庭・地域が協働で子どもの育ちを支える」

(2) 内容

分業型社会から協働型社会へ。地域の課題を明らかにし、学校・家庭・地域が協働して子どもの育ちを支えることを目指し、学校が核となり地域全体の教育をマネジメントし、大きな成果を上げておられる湖南市立岩根小学校の学校支援地域本部の理念や取組を分かりやすくご指導いただいた。また、事業を地域に根付いたものに高めていくための意識改革やコミュニケーションの重要性等についてもご教示いただいた。

(3) 情報交換会について

参加者が関わる事業ごとにグループ分けを行い、情報交換を行った。現場で事業を支えている参加者の悩みや他市町に尋ねたいことなど具体的な意見の交換がなされ意義深い時間となった。

(4) 参加者のアンケートより

- ・学校支援、家庭教育支援について大きな方向や基本的な捉え方を教えていただいた。情報交換では、短い時間であったが、他の市町の悩みや課題等が聞けてよかった。
- ・子どもを育てるのは、親だけでなく、学校でもなく、社会全体ということが再認識できた。地域活動の大切さがわかった。
- ・先生のお話は、大変学びになった。児童クラブの生活の場で、子どもができることは子どもたちにやらせていくことが大切だと思った。



◆学校支援地域コーディネーター研修会 1

- 1 目的 学校と地域ボランティアを結びつけるために学校支援地域コーディネーターが果たす役割は、さらに期待されており、学校支援地域コーディネーター等の資質向上とネットワーク構築を図る。
- 2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 学校支援地域コーディネーター
- 4 日時 平成24年(2012年) 8月6日(月) 13:30～16:30
- 5 日程

13:00～13:30 受付

13:30～13:35 開会あいさつ

13:35～14:50 講演

講師：高橋 興 氏
(青森中央学院大学)

15:00～16:20 県内の取組状況の情報交換

16:20～16:30 まとめ(講師より)

6 場所 滋賀県庁新館7階 大会議室

7 参加者数 31名

8 概要

(1) 演題 「学校・家庭・地域の連携を推進するためコーディネーターが果たすべき役割」

(2) 内容

学校・家庭・地域の連携が必要であることは、これまでの教育の大きな流れである。そうした中、地域総参加で子どもを育むための課題は何か、それぞれの立場で確認したい。特に、コーディネーターは、教職員の信頼獲得が大切であり、そのため学校が望む活動ができるボランティア確保に努めたい。「口こみ」と「ネットワーク」を大切に、自信をもって、ゆっくりと取り組む必要があることを指導助言いただいた。

(3) 学校支援コーディネーター同士の意見交換

これからの社会状況や教育課題を踏まえ、地域と協働で子どもの育ちを支えるため、日頃の活動を振り返り、コーディネーターの立場から、課題だと思われることについて意見交換を行いました。

(4) 参加者のアンケートより

- ・学校と地域の結びつきの大切さ、教員の現状などについて学ぶことができました。地域と教員の結びつきにより、教育課題を解決していかなければならないと思いました。
- ・高橋先生の講演は、大変役に立ちました。全体的な流れ、制度をお話しいただき、自分の役割、仕事、これからの方向性がよくわかりました。



◆学校支援地域コーディネーター研修会 2

- 1 目 的 学校と地域ボランティアを結びつけるために学校支援地域コーディネーターが果たす役割は、さらに期待されており、学校支援地域コーディネーター等の資質向上とネットワーク構築を図る。
- 2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 学校支援地域コーディネーター
- 4 日 時 平成24年(2012年)9月4日(火) 13:30~16:30
- 5 日 程

13:00~13:30 受付

13:30~13:35 開会あいさつ

13:35~14:50 講演

講師：大谷裕美子 氏

辻 実千代 氏

(大阪府河内長野市立
美加の台中学校)

15:00~16:20 県内の取組状況の情報交換

16:20~16:30 まとめ(講師より)

6 場 所 滋賀県庁新館7階 大会議室

7 参加者数 36名

8 概 要

(1) 演題 「学校支援地域本部 ゆめ☆まなびネットの取組と課題
— 学校との信頼関係をむすぶ・つなぐ — 」

(2) 内容

大阪府河内長野市美加の台中学校では、地域全体で学校教育を支援する体制づくりとして、①子どもの豊かな学びと心を育む②学校教育の充実③地域の教育力の向上をめざして取組を進めている。

そうした中、地域コーディネーターとして学校と地域人材との連絡調整・派遣、主体的な取組と企画、参加・協力人材の募集、人材バンクの作成、活動の取材、広報活動、学校と地域とのクッションとなることなどを具体的事例をもとに紹介いただいた。

(3) 学校支援コーディネーター同士の意見交換

日頃の活動を振り返り、ボランティアさんの募集にかかわり、御苦労されていることやボランティアさんに気持ちよく活動していただく上で、課題だと思われることについて情報交換を行いました。

(4) 参加者のアンケートより

- ・講演で具体的な学習支援の内容を紹介していただき、参考になった。
- ・講師の「新しいことがやりたい。」という行動力がすばらしいと思いました。
- ・先生からの依頼を待つだけでなく、自分達で活動の場を広げられるように、いろいろアンテナを張っていらっしゃるのがわかりました。必ず、フィードバックされていることがすばらしかったです。



◆二事業合同研修会（放課後子ども・家庭教育支援活動）

- 1 目的 県内で実施される「放課後子どもプラン」・「家庭教育支援活動」に関わるコーディネーターや安全管理員、指導員等の事業関係者が一堂に集まり、資質向上や情報交換等を図るための研修等を行い、県内における各事業の効果的な推進を図る。
- 2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者・家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者・各市町行政関係者
- 4 日時 平成24年10月25日（木）9：30～12：00
- 5 日程
9：15～ 9：30 受付
9：30～ 9：35 開会行事
9：35～11：50 講演 講師：鈴木 秀一 氏
(滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー)
11：50～12：00 閉会行事
12：00 閉会

6 場所 滋賀県庁東館7階 大会議室

7 参加者数 90名

8 概要

(1) 演題 「子どもを理解し、子ども同士のつながりを創造する指導者の関わり方」

(2) 内容

スクールソーシャルワーカーや心理カウンセラーとして多くの子どもや保護者と関わってこられた経験をもとに、子どもや保護者と関わる者が持つべき資質や、指導する際のポイントを具体的に指導いただいた。専門的な内容も分かりやすく講義いただき、子どもの本質を理解することや感受性をみかくことなどの重要性について、参加者全員がしっかりと理解を深めることができた。感想にも多く書かれていたが、参加者が自らを振り返り、意欲を高めることのできる研修となった。

(3) 参加者のアンケートより

- ・「キョウミ」を持つことでなく「カンシン」を持つ、「カンガエル」ことより「カンジル」こと、現在までの活動の根っこが変わるぐらいの感覚を知ることができた。
- ・心理学なのでわかりにくい感じだと思っていたが、アニメも取り入れてくださり、また、内容も具体的で非常に分かりやすかった。自分自身を知るきっかけもできたように思う。
- ・スクールソーシャルワークの福祉的視点、子ども理解について、今までの自分の考え方と違う新しい視点が感じられてとても勉強になった。現場に持ち帰り一つ一つ取り組んでいくことで、子どもたちのためになりたいと思いました。
- ・初めての参加ですが、専門的な知識が必要だと感じ、今後も研修を受けたいと思いました。少し難しいけど参考になりました。
- ・たいへん分かりやすい講演で、日々子どもに接していく上での基本的なかかわり方に改めて気づき、自分の思いこみを反省した。自己理解と感受性訓練を日々心がけて、より子どもたちを理解し、少しでも貢献できればと思った。



◆三事業合同研修会

- 1 目 的 実施市町における取組の成果を広く関係者に情報発信し、それぞれの取組の連携を深め、社会全体で子どもの育ちを支える体制づくりを推進する。
- 2 主 催 滋賀県教育委員会
- 3 参加対象 学校支援地域本部関係者、放課後子ども教室関係者、家庭教育支援活動関係者市町担当職員、小中学校の教職員、PTA関係者
- 4 日 時 平成25年(2013年)1月24日(木)13:30～16:20
- 5 日 程

13:00～13:30 受付

13:30～13:40 開会行事

13:40～15:00 講演

講師：熊谷 慎之輔 氏

(岡山大学大学院教育学研究科
学校教育学系)

15:10～16:10 事例報告

16:10～16:20 まとめ(講師より)



- 6 場 所 滋賀県庁新館7階大会議室

- 7 参加者数 112名

8 概 要

(1) 演題 「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業の意味と今後のあり方」

(2) 内容

社会全体の教育力向上のため、学校・家庭・地域が連携・協働を進めることの意味を先進的事例をもとに紹介いただいた。また、こうした取組を積極的かつ継続的に行っていくための推進母体となる組織(チーム)の必要性を御指導いただいた。

(3) 事例報告

* 栗東市立栗東中学校の取組

* 湖南市家庭教育支援
チームの取組

* 米原市子ども教室の取組



(4) 参加者のアンケートより

- ・東洋医学の漢方薬としての地域連携が、即効性はなくとも、じんわりと効いてくるんだという話が心に残った。
- ・何のために連携するのか、連携することが目的ではないことを改めて思い知らされました。
- ・組織づくりをするにあたって、必要なことや考えなくてはならないことがよくわかりました。